

2014年度 「凜々子賞」 受賞校の紹介

カゴメは「凜々子」の苗プレゼントの成果を収集する目的で、毎年『「凜々子」食育実践レポート』を募集しています。お寄せいただいたレポートには、子どもたちの気づきや学び、また、ご指導にあられた先生方のお知恵や工夫など、たくさんの貴重な情報がつまっています。これらが、当活動の原動力となっており、優秀実践校の取り組みを広く紹介することで、わくわくするような食育の輪が広がっていくと考えております。

テーマ

「凜々子」プロジェクト 「凜々子」を調べて、数えて、 おいしく食べよう



茨城県
学校法人三育学園
久慈川三育小学校
1～6年生 / 22名

左から、
川崎 真理子先生、
山本 幹雄先生、
山本 泰子先生

活動の
ねらい

- 1・2年生 / トマトを通じ、かつこ()を使った計算を学ぶ
- 3・4年生 / 上手な育苗、他のトマトとの違いなどをクイズ形式でまとめる
- 5・6年生 / 調理実習を行い、食事会を主催する

全校児童で育てた「凜々子」を、学年ごとに異なる切り口で学びにつなげました。1・2年生は、冷凍保存した「凜々子」を袋に小分けにして数えることで、算数に結びつけました。3・4年生は「トマトいろいろ新聞」の発刊と、栽培を通して得られた気づきをクイズで表現。その内容は特徴や育て方、種類や含まれる成分など、幅広いものでした。5・6年生は「トマト料理を考える」というテーマで、家庭での実践レポートに加えて、下級生を招待する食事会を開催。また、家庭での栽培や調理を行うことで「凜々子」を最大限活用できたと思います。

活動ハイライト



自らが育てたトマトを数えた1・2年生。数字を使ったときはやる気が違い、活気のある授業となった。



5・6年生主催の食事会では、下級生を招待する場を設計する過程で、主体性とおもてなしの精神を学べた。

テーマ

りりこでつくろう おいしい スイーツ

宮城県
社会福祉法人豊心会
えがおの保育園
4・5歳児 / 19名



左から、
下屋 純枝主任、
増尾 三千代先生、
戸部 末津子栄養士、
小嶋 優里先生

活動の
ねらい

- 野菜を育てることを楽しみ、また、食への興味・関心を持つ
- 「凜々子」の栽培とクッキングを通して、世代間交流を深める

今年度より宮城県加美農業高校と交流を図るため、「凜々子」を通じてのさまざまな体験ができるよう計画を立てました。7月に高校生を招いて、畑でのトマトの育て方を学びました。子どもたちは高校生から育苗についての学びを得ることで「凜々子」への興味や関心が高まり、「凜々子」の成長をお兄さん・お姉さんに伝える事を励みに取組む姿が見られました。8月には収穫した「凜々子」を持って、高校でのクッキングを実施。園児と高校生には10歳以上の年齢差があるものの、「凜々子」を中心として円滑な交流を図ることができました。

活動ハイライト



苗が到着し「凜々子」を植える。7月には宮城県加美農業高校の生徒の栽培指導を受ける。



包丁の使い方、鍋のかき混ぜ方など、高校生に手を添えて教えてもらい、楽しんで調理できた。

※本活動で開発した「トマトゼリー」のレシピは19ページに掲載しています。

「凜々子」 食育実践レポート 募集要項

応募資格

「凜々子」の苗の栽培・調理活動に取り組んだ学校・園の教職員の方

応募方法

30ページの応募用紙に必要な事項をご記入の上、下記までお送りください。

〒104-8691
日本郵便株式会社 晴海郵便局
郵便私書箱 第201号
「凜々子」食育実践レポート 係

※応募用紙のデータ (Microsoft Word) は、付録 CD にあります。また、ウェブサイト

<http://www.kagome.co.jp/tomato-nae/youkou> からダウンロードできます。

※応募用紙および同封いただいた資料や作品は返却いたしません。子どもたちの絵日記や作文などの作品は、必ずコピーをお送りください。

※応募事例の著作権は、カゴメ株式会社に帰属します。

応募締切

2015年12月4日(金) 消印有効

選考基準

- 子どもたちが積極的に調理活動に取り組み、食への興味・関心を高める内容であること。
- 他校の参考となり、活用できる内容であること。

賞

今年度の優秀実践事例として選出された学校・園には、「凜々子賞」として賞状および賞金5万円を進呈いたします。

2014年度は、応募総数111通の中から、以下に掲載する3校を優秀実践事例「凜々子賞」として選出いたしました。各校・園の詳しい実践レポートは、付録CDに収録しています。また、ウェブサイト (<http://www.kagome.co.jp/tomato-nae/report.html>) でも公開しています。ぜひご覧ください。

テーマ

いきものはっけん やさいをそだてよう

愛知県
名古屋市立
内山小学校
2年生 / 18名



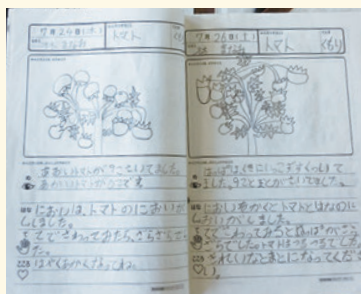
横井 成美 先生

活動のねらい

- 学級園でクラスの仲間とともに育てることで「協力する態度」を育てる
- 野菜の成長を見守る中でのたくさんの気づきから「生命のはぐくみ」を感じる
- 身近なトマトの栽培・調理を友達・家族と取り組み、「食への興味・関心」を高める

学級園での栽培と並行して、1人1鉢を家庭でも育てることで、家族を巻き込んだ活動になるよう計画。家庭でも育てることで夏休み中も観察を続けられ、40ページの観察記録ノートを埋めつくす子どもが大半を占めるほど熱心に取組めました。夏休み後には、学校と家庭で収穫した「凜々子」を合わせ、保護者との調理実習を実施。子どもたちそれぞれが研究したレシピを発表、人気投票でレシピを決め、食材は大人が付き添いのもと、自分たちで買い物に行きました。調理実習では保護者と一緒に和気あいあいと進行でき、子どもも保護者も楽しめたと思います。子どもたちにとっても、保護者にとっても、「食と命」「人と人」のつながりを深めたいという点で大変よい機会となりました。

活動ハイライト



夏休み中も書き続けた観察記録ノートには、家庭と学校での成長の違いなど気づきが見られた。



保護者を迎えての調理実習。調理の楽しさに目覚め、お手伝いをする子や家族で食に関する話題が増えたと聞く。